

評価の観点	評価項目	方 策	具体的数値目標	自己評価①				自己評価②			
				保護者	生徒	学校	改善策	保護者	生徒	学校	改善策
確かな学力の定着	1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	○学力向上コーディネーターが中核となり、学力向上年間指導計画を基盤として課題解決的・体験的な学習活動を積極的に授業に取り入れ、新教育課程に沿った実践に取り組む。	保護者と生徒、学校の80%以上が、授業が分かると答えている。	A	A	A	継続 ・ICTの活用を推進するとともに、単元内、授業内に意図的・計画的に交流場を設けるようにする。	A	A	A	・継続 ・生徒の声を拾って単元の課題・めあてをつくる。 ・振り返りで出たことを次の授業に生かす。
		○「南牧中スタンダード」を活用して、基礎・基本の徹底と学習習慣の定着を基盤に、生徒の主体的な学習活動につながる授業を計画し実践していく。	学校の80%以上が、「基礎基本」「学習習慣の定着」を基盤とした「主体的」な学習活動をしていると答えている。			A				A	
	2 学習における個別最適化の実現	○タブレットを有効活用することにより、個別最適化を目指したわかる授業、楽しい授業になるよう心掛け、主体的に学習に取り組む態度や学習習慣を育む。	保護者と生徒、学校の80%以上が、授業が楽しいなど学校での学習に対して満足感をもってしていると答えている。	A	A	A	継続 ・「家庭学習のしおり」を活用する。	A	A	A	・継続 ・小中で家庭学習の手引きの見直しを図り、積極的に活用できるようにする。
			学校の80%以上が、タブレットを活用した個別最適な授業に取り組んでいると答えている。	保護者と生徒、学校の80%以上が、家庭学習に毎日取り組んでいると答えている。	A	A				B	
		学校の80%以上が、授業から家庭学習、家庭学習から授業へとつながり、生徒が主体的に取り組める授業をしていると答えている。	学校の80%以上が、タブレットを活用した個別最適な授業に取り組んでいると答えている。			A	・生徒が調べたくなったり、習ったことを使いたくなったりする状況を作り、主体的な学習につなげる授業を展開していく。 ・ICTも活用して、予習型・復習型の家庭学習ができるように授業と家庭学習の繋がりを提示できるようにする。 ・テストや振り返りの時間を活用し、生徒の躓きを生徒自身と教師が把握できるようにする。			A	・各教科での使用方法についての研修を受けたり、それぞれがどのように使っているのかを報告し合ったりする場を設ける。
		学校の80%以上が、授業から家庭学習、家庭学習から授業へとつながり、生徒が主体的に取り組める授業をしていると答えている。			C				C	・授業の内容を家庭で振り返れるようワークやプリント等を活用して行う。 ・予習型・復習型の家庭学習ができるよう、授業の中で今日のお勧めの家庭学習を具体的に例示したり、家庭学習したことを授業で取り上げたりする。	
豊かな人間性の育成	3 互いに認め合い、郷土を愛する心の育成	○生徒一人一人が尊重され、自己存在感や有用感を実感できる意図的な活動をすすめる。思いやりや協調性を育み、互いに認め合う温かな集団づくりに取り組むとともに、郷土に誇りと愛着を抱く心の教育を推進する。	保護者と生徒、学校の80%以上が、生徒が認め合いながら学校生活を送っていると答えている。	A	A		継続 ・自己肯定感と他者理解がより高まるような声かけを普段から行う。	A	A		・継続
						A			A	・継続	
	4 社会性の育成	○各種学校行事や地域、関係団体との交流等の様々な教育活動の中で、価値ある体験活動を推進し、自立心や創造力、協調性等の社会性の育成を図る。	保護者と生徒、学校の80%以上が、生徒が進んで学校外の人と交流して学習を進めていると答えている。			B	・ふるさと朝礼以外に、各教科や総合などで地域の人や他地域の人の交流の場を創出する。 ・校外学習など他者との触れ合いを通して社会生活における、マナー等について学ぶ機会を設ける。		A	B	・他校とのリモート交流が、国語・英語・総合で行えたことは成果として挙げられる。今後も交流の機会を検討していく。 ・学校運営協議会などを通して、村内外にどんな人材がいて、どんなことが可能なのか共有し、活用について検討する。 ・外部と関わる際には、生徒からの質問など、相互交流できる場を意識し増やしていく。 ・職場体験の前などにマナー講座などを行い、自信を持って交流できるようにする。
					B	B					
								B			
5 学校図書館等の利活用	○読書の励行や学校図書館の利用を勧め、生徒が進んで読書に取り組める環境を整え、読書に親しむ習慣づくりに努める。	保護者と生徒、学校の80%以上が、生徒が読書に毎日取り組んでいると答えている。			B	・読書週間などに合わせて、読書に親しめる取り組みを設定する。 ・家庭への読書の啓発を進める。 ・各教科指導や学級指導、委員会活動等で本に触れる機会を意図的につくる。 ・図書室の利用の活発化させる。 ・朝読書の時間を充実させる。 ・新聞コーナーの活用し、NIEを推進する。		B		A	・読書活動の推進は行っているの で、家庭を巻き込んだ活動につなげる。 ・担任も積極的に読書活動をする。 ・昼休み等に生徒が図書室に行ける時間を確保する。
健康の増進・体力の向上	6 主体的で健康的な生活習慣の定着	○新型コロナ対応のための新しい生活習慣を徹底し、生徒が自ら主体的に健康的な生活を送ることができるよう指導していく。また、学校医、学校歯科医、栄養士、保健師等との連携を密にして、保健・健康教育を充実させる。	保護者と生徒の80%以上が、生徒が毎日朝食をとっていると答えている。	A	A	継続 ・保健の授業や学活等の時間を通して、健康・安全面に関わる意識の向上を図る。	A	A		・継続	
			保護者と生徒の80%以上が、生徒が1日6～9時間の睡眠時間をとっていると答えている。	A	A			A	A		
			保護者と生徒、学校の80%以上が、生徒が進んでマスク、消毒、体調管理等の新型コロナウイルス対策を行っているという答えている。	A	A				A		
	7 体力・精神力の向上	○効果的な少人数指導を探り、学年の枠を取り払った体育科授業の充実を図るとともに、計画的・系統的な実践を通して体力・精神力の向上、運動に親しむ態度の育成を目指す。	保護者と生徒、学校の80%以上が、生徒が運動（体育や部活動を含む）や地域のスポーツ活動などに進んで取り組んでいると答えている。	B	B		・体育の授業を通して、出来る喜びや分かる楽しさを味わわせることで、主体的に運動に取り組もうとする意欲を高める。 ・具体的に中学生に必要な運動量を伝え、生活に合わせて運動を工夫できるようにする。 ・学校行事等を運動という観点からも見直ししていく。	A	B		・体力差を考慮し十分に行われている。 ・駅伝など、みんなで体力向上に向けて頑張る取り組みと取り組み方について検討する。
				A				A			

評価の観点	評価項目		方 策	具体的数値目標	自己評価①				自己評価②			
					保護者	生徒	学校	改善策	保護者	生徒	学校	改善策
積極的な生徒指導の推進	8	きめ細かな生徒指導	○情報交換を密に行い生徒の実態をしっかりと把握し、全職員の共通理解のもとで互いに連携し合い、生徒一人一人に寄り添ったきめ細やかな生徒指導を行う。	学校の80%以上が、生徒指導上の情報交換を密に行い、きめ細かな指導をしていると答えている。			A	継続 ・互いに何でも話し合える雰囲気醸成し、日々の会話を通して、生徒の情報交換が密に行えるようにする。			A	・継続
	9	いじめと不登校未然防止に対する組織的な取組	○いじめ・不登校の未然防止及び早期発見・早期対応のために、アンケートの有効利用とSCや関係諸機関との連携を密にした教育相談体制の機能化をより一層進める。	保護者と生徒、学校の90%以上が、生徒がいじめ等の悩みがなく、安心して学校生活を過ごしていると答えている。	B	A	A	・保護者との連絡を密にするなどして安心してもらえるようにする。 ・悩みを相談する機会（SCなど）の積極的利用を呼び掛ける。 ・生徒と先生がじっくり話をできる時間を確保できるよう工夫する。	B	A	A	・関係学年だけでなく、異学年職員、養護教諭、SC等、全職員で連携し、組織的に対応する。 ・教員全員で生徒との関係性作りの大切さを共通理解し、生徒が困ったときには声を上げられるような関係になる。 ・保護者との連絡を密にとり、些細なことでも相談できる関係をつくる。
				学校の80%以上が、いじめや不登校の未然防止、早期発見、早期対応のために、アンケートやSC、教育相談部会等を活用していると答えている。			A	継続 ・生徒がカウンセリング以外にもSCと話ができる時間も確保する。 ・アンケートを有効活用するとともに、積極的に声をかけをし、生徒の様子を把握するよう努める。			A	・継続
道徳教育の充実	10	各種教育と関連させた道徳の実践	○学校行事や人権教育等の取組の重点的指導に道徳的価値を位置付け、道徳教育全体計画や単元計画、別業の見直し改善を行い体系化を進めて、道徳教育の充実を図る。 ○道徳の時間を「要」とし、道徳の時間と各教科領域、豊かな体験活動を横断的に関連付け、全校態勢で教育活動全体を通して心に響く道徳教育を推進する。	学校の80%以上が、学校行事や人権教育、各教科領域と連携させながら道徳教育を充実させていると答えている。			A	継続			A	・継続
	11	考え、議論する道徳教育の工夫	○道徳の評価について、折に触れて確認しながら校内で意思統一し、「特別の教科道徳」の授業の中で、考え、議論する場面を工夫して設定できるよう研鑽を積んでいく。	学校の80%以上が、考え、議論する道徳の実践をしていると答えている。			A	継続 ・生徒同士が意見を主体的に交流できるような授業をしていきたい。			A	・継続
キャリア教育の充実	12	キャリア教育全体計画に基づいた指導の充実	○キャリア教育全体計画に基づき、民間のキャリア教育プログラムを効果的に活用しながら、組織的、系統的に望ましい勤労観や職業観の育成に努め、指導過程を家庭と共有する。 ○コロナ禍の中でも職場体験活動が充実するよう、各事業所と連携して方法を模索し、キャリアパスポートを活用しながら、自己の将来設計に生かせる取組にする。	生徒と学校の80%以上が、生徒が学級活動において自己の生き方を考えていると答えている。	A	A	B	・キャリアパスポートを活用するところまでは使っていないため、活用方法を検討する。 ・これからの人生について考えられる機会をつくる。	B	B	B	・総合を軸にキャリア教育を計画的に進めていく。 ・学級通信や学年通信で行ったことや学んだことを発信する。 ・キャリアパスポートを使用する場面を年計に位置づける。 ・以前と比べて変化したところなどを生徒が考える機会をつくる。
				保護者と生徒の80%以上が、将来の夢や希望する進路について親子で話し合っていると答えている。	B	A		・1年生は進路学習を後期に行うので、そこで親子で考える時間を作ってもらえるようにする。 ・会話の基となるような情報を学年・学級通信等を活用して発信するようにする。	A	B		・今後の人生について考えたことなどを保護者にも見てもらい、コメントをもらう。 ・進路に向けた話が家庭にも伝わるように便りなどで発信する。
人権教育・特別支援教育の充実	13	自他を尊重する心の育成	○日常の指導や人権学習旬間の取組を充実させ、人権意識の高揚を図り、生徒主体の活動により、自他を尊重し、差別や偏見を解消しようとする心情と態度を育成する。	保護者と生徒、学校の80%以上が、差別や偏見のない生活を送っていると答えている。	A	A		継続 ・道徳を中心に様々な考えにふれて、豊かな感性を育てる。	A	A		・継続
						A	継続 ・互いを認め合えるような声掛けを常に行っていく。 ・授業や日々の活動の中で、生徒のよかった点を見取り積極的に賞賛することで、自己肯定感を高められるようにする。			A	・継続	
	14	個に応じた特別支援教育の充実	○特別支援教育の研修に積極的に職員を参加させ、そこで学んだ知識を全体で共有し、職員の特別支援教育への意識を高める。そして、個別の指導計画を活用しながらSCや関係諸機関との連携を密にし、個の実態に応じたきめ細かな支援の充実を努める。	学校の80%以上が、特別支援教育の研修を行い、指導に役立てていると答えている。			B	・研修は行っていないが、特別支援教育の視点をもって生徒対応をしている。 ・個別の支援や配慮の仕方について共有する。			B	・特別支援に関する研修会を行う。 ・西部や富特等から専門の先生に本校にきていただき、指導いただいた内容を全員で共有、実践していく。 ・特別支援担当の先生から話を聞く機会を設ける。
郷土愛の醸成・国際理解教育の推進	15	ふるさと南牧を愛する教育の充実	○地域行事への積極的な参加、ボランティア活動、職場体験学習等を通して総合的な学習の時間を充実させながら、地域の自然・歴史・文化への関心と誇りをもたせ、ふるさと朝礼や職業講話で地域の教育力を積極的に導入し、将来までつながる郷土愛を育む。	保護者と生徒、学校の80%以上が、「生徒はふるさと南牧が好きである」と答えている。 学校の80%以上が、ふるさと南牧の学習を行事や総合的な学習の時間に組み込んで計画的に行っていると答えている。		A		継続 ・総合的な学習の時間や、道徳の授業を通して郷土愛を育てていく。		A		・継続
	16	全校体制での国際理解教育の推進	○全校態勢による英語活動としてのイングリッシュデイの内容を見直し、無理なく実施できるよう計画する。ALTを、英語の授業以外でも積極的に活用し、多角的な教育効果を探っていきながら国際理解教育を充実させる。	保護者と生徒、学校の80%以上が、生徒が英語に親しんでいると答えている。 学校の80%以上が、全校体制の英語活動が実践されていると答えている。	B	B		・英語に興味を持ってもらえるよう授業や雰囲気づくりの工夫はし続けていく。 ・英語教育が活発になっていると思う。継続していけば、上向くと感じる。 ・地域と協力して英語に親しむことが出来る環境を整える。 ・英検の活用、John's English Corner（昼の放送）の活用	A	A		・継続

評価の観点	評価項目	方 策	具体的数値目標	自己評価①				自己評価②			
				保護者	生徒	学校	改善策	保護者	生徒	学校	改善策
安全管理・安全指導の徹底	17 安全管理の徹底と防災教育の充実	○施設・設備の点検・安全管理の徹底を図り、安全・安心な教育環境の整備に努めるとともに、警察等関係機関と連携して交通事故防止、不審者対応及び防災教育の充実を図る。	保護者・生徒の80%以上が、避難訓練等により、安全を意識して学校生活を送っていると答えている。		A		継続 ・1学期同様、生徒が主体になる避難訓練を実施していく。		A		・継続
			学校の80%以上が、関係機関と連携して安全・安心な教育環境の整備をしていると答えている。	A	A	A	継続 ・警察などと連携しながら交通安全への意識を醸成していく。	B	A	A	・避難訓練や交通安全の講話などの様子をHPや通信等で外部への発信をしていく。 ・安全に関する職員研修を行う。
		○常に危機意識をもちながら安全教育を充実させ、より実践的な避難訓練を継続して、生徒とともに教職員も自己危機回避能力、自己安全管理能力のさらなる向上を目指す。	保護者・生徒の各80%以上が、生徒が自ら安全を意識した行動をとれていると答えている。	A	A			A	A		
			学校の各80%以上が、学校は実践的な安全指導により、生徒の自己安全管理能力を高めていると答えている。			A	継続			A	・継続